

自転車事故でも高額賠償を負うことも…

自転車も車の仲間。当然、違反をすると罰則規定が設けられています。また、自転車事故によって被害者から高額賠償を請求される事例も全国で発生しています。

自転車事故の高額賠償事例

賠償額 5,000 万円

女子高生が夜間、携帯電話を操作しながら無灯火で走行中、前方を歩行中の女性と衝突。女性には、重大な障害（手足がしびれて歩行が困難）が残った。

万が一に備えて！

自転車の交通事故に備え、保険に加入しましょう。

「TS マーク」とは？

自転車安全整備店に勤務する自転車安全整備士が、点検、整備した安全な「普通自転車」に貼るシールのことです。この「TS マーク」には、傷害保険と賠償責任保険が付帯されています。

※その他、「交通事故傷害保険」「自転車総合保険」などがあります。



第1種（青色）
賠償責任保険限度額 1,000 万円
（その他保証有り）



第2種（赤色）
賠償責任保険限度額 2,000 万円
（その他保証有り）



「安心なくらし」へのアプローチ



無くならない交通事故。市内でも、毎年、交通事故により尊い命が奪われています。「安心なくらし」の実現のためには「安全意識の高まり」や「地域での支え」が必要です。

毎日のようにテレビや新聞で報道されている交通事故のニュース。4月には、京都府亀岡市で登校中の児童やその保護者の列に自動車が出っ込み、3人が死亡、7人が重軽傷を負うなど、全国で痛ましい事故が発生しています。

事故は、いつどこで起こるか分かりません。あなた自身が加害者や被害者にならないように、また、大切な人が事故に遭わないように、一度、交通安全について考えてみましょう。

市内の死亡事故は毎年発生しています

市内の交通事故の発生件数は、ここ数年、緩やかな減少傾向にあります

す。しかし、死亡事故は、毎年後を絶ちません。平成23年の事故発生状況は、人身事故282件、死者数4人、負傷者数369人となっています。さらに、今年に入り、5月末現在で、人身事故が139件（丹波警察署公表速報値）と昨年を上回るペースで発生しています。

特に交差点での運転は慎重に

平成23年に市内で発生した人身事故282件中、車相互による事故が212件で、そのうち追突事故が124件、出会い頭事故が57件発生しています。また、交通事故の発生場所は、交差点及び交差点付近での事故が174件と全体の約6割を占めています。



事故は夕方の5時、6時頃に多く発生しています。仕事帰りなどの運転には特に注意を！

一瞬の気の緩みが重大事故につながります

「停車中の車に気付いて急ブレーキを踏んだ」という経験はありませんか。これは、漫然運転といい、心理的・生理的な要因で注意が散漫になり、危険の発見が遅れてしまうこと

交通事故死の過半数を占める高齢者

市内で毎年交通事故により亡くなる方の過半数が高齢者です。また、事故によって相手に怪我をさせ、加害者として責任を負う事例も発生しています。年齢を重ねるごとに、運転に必要な運動能力の低下は避けられません。高齢ドライバーの方は、交通安全講習会、運転適性検査などを定期的に受け、自分の運動能力を確認しましょう。また、運転に支障がある場合は、大きな事故を起こす前に、勇気をもって運転免許証を返納することも考えてみましょう。

自転車も車の仲間

自転車は、小さな子どもから高齢者まで、幅広い世代が気軽に乗ることができる便利な乗り物です。しかし、自転車は、車輪の付いた鉄の塊。運転を誤れば、大けがにもつながります。また、加害者となり、多額の賠償金を請求される事例も発生しています。自転車も自動車と同じ車であることを肝に命じて運転しましょう。

高齢運転者の運転免許自主返納を支援します！

市では、交通安全対策の一環として、運転免許証を自主返納された方に、運転経歴証明書の交付手数料の補助と「たんば共通商品券」1万円分の贈呈をしています。

■対象者 / 65歳以上の方で、運転免許証を自主返納し、運転経歴証明書の交付を受けられた方

■申請先 / 市役所、各支所

☎ 生活安全課（氷上庁舎内） ☎ 82 - 1532

「夏の交通事故防止運動」が実施されます

期間：7月15日（日）～24日（火）





子どもたちの安全を守る地域ボランティア

「おはよう、気をつけて渡ってね」。氷上地域の谷村で毎朝交差点に立って子どもたちに優しく声をかける河津さんと角田さん。子どもたちの登下校の時間に合わせて交差点に立ち、子どもたちが安全に道路を横断できるようにサポートを続けています。

「この通りは交通量が多く、大人でも渡るタイミングが難しいんです」と河津さん。信

号のない三差路では、ひっきりなしに車が右左折を繰り返しています。河津さんは、数年前、民生委員を引き受けてから朝の見守りをはじめ、今では純粋なボランティアとして交差点に立ち続けています。「だれかが見守らないと子どもたちが心配」と使命感をもって取り組んでいます。

一方、角田さんは、交差点の程近くに居住し、朝夕の登下校の時間に合わせ、毎日交差点にやって来ます。「孫が幼稚園の頃から交差点に立ち

地域で見守る子どもの安全



「子どもたちを悲惨な事故から守りたい」- 雨の日も風の日も黄色い旗を携えて子どもたちを見守る地域の人たちがいます。

角田宗彦さん (72) (写真左)
河津輝樹さん (64) (写真右)



丹波警察署交通課長
中岡 勝志 さん
nakaoka katsushi

市内で起こっている交通事故の多くは、交差点や交差点付近で発生しています。そしてその多くは、自動車の操作や安全確認が不十分な安全運転、義務違反によるものです。いつ起こるかかわからない事故に備えて、緊張感をもって運転することが不可欠です。また、子どもや高齢者をはじめ歩行者に配慮した運転も求められます。

これまで、死亡事故の

自分や家族のため、日々緊張感をもって運転を



現場に立ち会うことが何度もありました。その度につらいのが家族への連絡です。交通事故で命を落とせば、残された家族や仲間たちの悲しみは、言葉では語りつくせません。一瞬の気の緩みが自分の人生、他人の人生を大きく変えてしまうということを十分に自覚して運転してください。

はじめ、今では、その孫も高校生になりました。こうやって長年続けているうちにすっかり習慣になりましたね」と笑顔で語ります。元気に登校してくる子どもたちが最後のひとりになるまで見守る姿が印象的です。

「気をつけて」の言葉には心から安全を祈る気持ちが込められ、子どもたちにもしっかりと伝わっています。



① お友だちの手をしっかりと握って道路を横断する園児たち ② 交通指導員や保護者が見守るなか、本番さながらに真剣な表情で道路を渡りました ③ 自転車の2段階右折に挑戦 ④ 自転車の安全な乗り方を学ぶ子どもたち。教室終了後には、安全教室修了証が手渡されました

安全を確かなものに

子どもたちが通う学校の登下校時には、常に交通事故の危険が潜んでいます。そんな危険から子どもたちを守るため、市では、小学3年生と中学1年生を対象に自転車教室を実施しています。

5月24日には、新井小学校で交通安全教室が開催され、1年生から3年生の児童と新井幼稚園の園児が参加しました。



安全タスキの正しい付け方を教える交通指導員。自転車に乗ることで子どもたちの行動範囲は広がります。また、それと同時に事故に遭う危険性が高まるため、みなさんの指導にも熱が入ります

子どもたちの安全意識を高める取組み

新井小学校は、県道稲畑柏原線に隣接し、朝夕の交通量が多い所に位置しています。しかも、小学校にたどり着くためには、県道を横断する必要がある、子どもたちにとっては、危険な場所にあると言えます。

地域の交通指導員の指導のもと、3年生は、自転車の安全な乗り方について学習しました。まずは、自転車の点検からスタート。ブレーキの利き具合やベル、反射板がきちんとしてあるかなどを確認。次に、信号機のある横断歩道や踏切の渡り方などを学びました。

1、2年生と園児は、保護者と一緒に横断歩道を渡る練習をしました。「左右をしっかり確認して渡りなさい!」「走っちゃダメ!」と保護者の指導にも熱が入ります。それも、子どもたちの安全を願う気持ちの表れです。

教師や保護者たちは、子どもたちの命を守り、育てていく大切な役割を担っています。「子どもたちを絶対に事故に遭わせない」、みんなの強い熱意が伝わることで、子どもたちの交通安全に対する意識は高まります。

参加者の声



交通安全教室に参加した園田さん親子。お子さんは、ともに小学2年生

横断歩道の渡り方など、歩行の基礎を学べる機会があり、親としては心強く感じます。ただ、見ていて危なっかしい場面もあったので、家に帰ってもう一度復習しようと思います。3年生からは、自転車で校区内を走れるようになります。今のうちにしっかりと交通ルールやマナーを身に付けさせたいですね。